

課題発見型授業デザインシート

【2限】【11H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|----------|
| 教科：英語 | 科目：論理表現 I | 授業者： | 教室：11H教室 |
| 単元：不定詞 2 | | 本時の主題：to 不定詞と原形不定詞について理解する | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>不定詞 2 の文法のポイントをペアワークを通して解説・理解させる。Exercises を生徒に答えさせながら、答えに対する理由や英文の日本語訳などを確認していく。</p> <p>原形不定詞を用いる使役動詞や感覚動詞と To 不定詞を用いる動詞の使い分けから、なぜそのような使い分けがあるのか、どのような違いがあるのかを考えさせネットで調べてグループごとに代表者が調べて分かったことを発表させる。</p> | | <p>インターネット検索で情報収集する時間が長くなることが考えられる。検索におけるヒントを必要に応じて与える。</p> <p>単に違いを理解する授業ではなく、これ以降の文法の学習において、文法上の決まりの由来という視点で他の問いを立てられるようになることをねらいとする。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 本授業で学んだ違いを十分理解したうえで、「やりとり」や作文において実際に運用するときに正しく使えるように指導していく。 | | | |

【12H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|----------|
| 教科：理科 | 科目：化学基礎 | 授業者： | 教室：化学実験室 |
| 単元：物質の構成 | | 本時の主題：炎色反応と沈殿生成による成分元素の同定 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>炎色反応と沈殿生成の実験を行う。</p> <p>続いて、未知の物質について、炎色反応と沈殿生成の実験を行い、その結果から成分元素の同定を行う。</p> | | <p>どの実験の結果をもとに元素を同定したのか、根拠を簡潔に示すように指導する。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 炎色反応や沈殿生成以外に元素の同定をする方法について学習したり、考えたりする。 | | | |

【13H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|--------|
| 教科：地理歴史 | 科目：地理総合 | 授業者： | 教室：13H |
| 単元：海岸の地形と人々の生活 | | 本時の主題：海岸ができる成因や特徴と、人々の生活に与える影響について考える | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| ①千里浜と七尾湾の沿岸部の地形を比較し、どのようにしてできた海岸なのか考察する。 | | ①地理院地図を利用し、等高線や土地利用などに注目させる。 | |
| ②離水海岸と沈水海岸、砂浜海岸の成因と特徴について理解する。 | | ②海岸段丘、リアス海岸、フィヨルド、砂州、ラグーンなどの形成について触れる。 | |
| ③海岸がつくる地形が、人々の生活や産業とどのように関わり合っているのかについて調べて発表する。 | | ③具体的地名を挙げ、農業、漁業、観光産業などに注目し、人々の生活がイメージしやすいように工夫を促す。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 氷河・乾燥・カルスト地形が、人々の生活にどのような影響を与えているのかについて考察する。 | | | |

【14H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：国語 | 科目：言語文化 | 授業者： | 教室：14H |
| 単元：訓読のさまりを理解し、文章の内容や構成、展開などを的確に読み取ろう。（読むことア） | | 本時の主題：「借虎威」に込められた意図について考察する。 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 「借虎威」の内容を確認する。 寓話の背景として何を喩えた話なのかを考えさせる。 教科書本文の前後の漢文を提示し、グループで読み下し、誰のどのようなねらいによるたとえ話なのかを考察する。さらに、春秋・戦国時代や遊説家という時代背景に視点を広げていきたい。 | | 一般的な故事成句としての「借虎威」の意味にとどまらないよう、『戦国策』の本文や当時の地図を示すなど、生徒がさまざまな視点で思考できるよう指導する。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| ・各グループの発表も参考に、各人がまとめたワークシートを提出させる。 | | | |

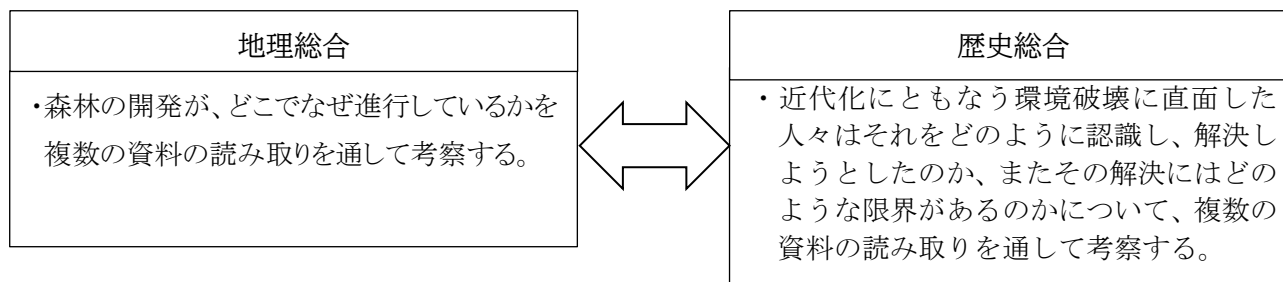
【15H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|----------|
| 教科：数学 | 科目：数学 I | 授業者： | 教室：15H教室 |
| 単元：2次関数のグラフと2次方程式・不等式 | | 本時の主題：2次関数のグラフから読み取れる情報 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| ①与えられた2次関数のグラフから読み取れる情報は何かを考える。 ②係数や方程式の解の正負、 $f(1)$ や $f(2)$ の値について考えさせる。 ③2次関数のグラフと直線の関係について考えさせる。 | | グラフや式からどのような情報が得られるか。 また、方程式や不等式の解などを考察するうえでグラフを用いることの有効性を感じ取れるか。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 2次方程式の解の配置問題へつなげる。 | | | |

【16H】教科・科目・領域融合型授業デザインシート

| | | |
|---|------|----------|
| 教科・科目・領域； 地理総合・歴史総合 | 授業者； | 教室；16H教室 |
| テーマ； 歴史総合 第1章4節近代化と現代的な諸課題 | | |
| 融合のねらい 近代化の文脈の中で森林開発および保全について多角的に考えさせたい。また先進国と途上国、熱帯地域と温帯地域など様々な立場で、多面的に考察する機会としたい。 | | |
| 本時のねらい 森林開発および保全の現状や歴史的背景を踏まえ、それらの課題を見出し、自分の意見を持つことができている。 | | |

内容



評価規準(○は該当する評価)

| | | |
|---|----------|---------------|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 森林開発および保全の現状や歴史的背景を踏まえ、それらの課題を多面的・多角的な視点から見出し、自分の意見を持つことができている。 | | |

【17H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|----------|
| 教科：国語 | 科目：言語文化 | 授業者： | 教室：17H教室 |
| 単元：訓読のさまりを理解し、文章の内容や構成、展開などを的確に読み取ろう。(読むことA) | | 本時の主題：「借虎威」に込められた意図について考察する。 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 「借虎威」の内容を確認する。 寓話の背景として何を喩えた話なのかを考えさせる。 教科書本文の前後の漢文を提示し、グループで読み下し、誰のどのようなねらいによるたとえ話なのかを考察する。さらに、春秋・戦国時代や遊説家という時代背景に視点を広げていきたい。 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ 一般的な故事成句としての「借虎威」の意味にとどまらないよう、『戦国策』の本文や当時の地図を示すなど、生徒がさまざまな視点で思考できるよう指導する。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| ・各グループの発表も参考に、各人がまとめたワークシートを提出させる。 | | | |

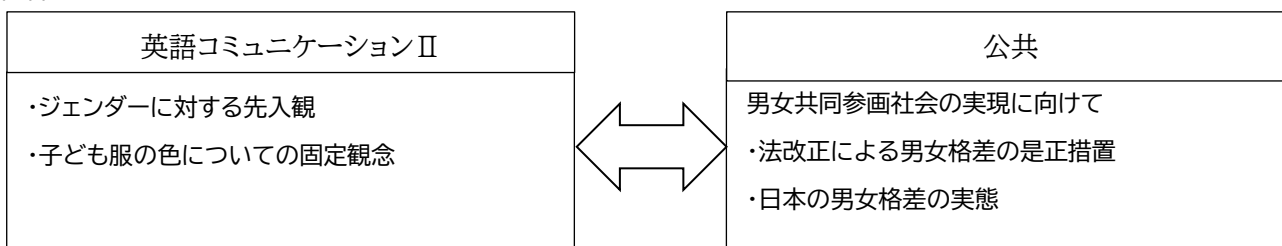
【18H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|----------|
| 教科：国語 | 科目：現代の国語 | 授業者： | 教室：18H教室 |
| 単元：論点を共有しながら、状況に応じて話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう。 | | 本時の主題：本文の後に続くふさわしい一文を考えよう。 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 「不思議な拍手」の本文の内容を大まかに確認する。 本文の読解を受けて、本文の後に続くふさわしい一文を考えさせる。 グループに分け、それぞれが考えた一文について話し合わせ、その中から1点を選ばせ、発表させる。 他のグループの発表を聞いて、自身の気づきをまとめさせる。 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ 本文の展開を踏まえた一文を考えるよう、声かけをする。話し合いの際には、一方的に自分の意見を押しつけたり、誘導したりしないよう、根拠と自分の意見を相手に正しく伝えるよう指導する。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 生徒各人がまとめたものを、課題として提出させる。 | | | |

【21H】教科・科目・領域融合型授業デザインシート ※3限目も同様

| | | |
|--|------|----------|
| 教科・科目・領域;英語コミュニケーションⅡ | 授業者; | 教室;21H教室 |
| テーマ; Gender Equality | | |
| 融合のねらい ジェンダーギャップについての英文を読み、男女平等について考えるきっかけがあった。公共の授業で取り扱ったジェンダーギャップ指数の上位国の実態を調べ、日本の現状と比較することで、各生徒が実生活の中とるべき行動を考える機会としたい。 | | |
| 本時のねらい 他国の取り組みを参考にしながら、日本のジェンダーギャップ指数が向上するためにできることやすべきことを、「自分自身」「クラスや学校」「社会・国」の観点で考え、アイデアを他者と英語で共有し、得た情報の中からそれぞれが取るべき行動について、各自の意見をまとめ、論理的に英語で表現する。 | | |

内容



評価規準(○は該当する評価)

| | | |
|--|----------|---------------|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 授業内での情報交換を通して得た情報をもとに、日本のジェンダーギャップ指数が向上するための取り組みを「自分自身」「クラスや学校」「社会・国」の観点から述べるができる。 | | |

【22H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|--------|
| 教科:理科 | 科目:生物基礎 | 授業者: | 教室:22H |
| 単元:第2章 遺伝子とのはたらき | | 本時の主題:分化した細胞の遺伝子発現 | |
| ねらいとする課題発見力(左の欄に○をつける) | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子分野のまとめとしての1時間である。 ・既習事項として、 <ul style="list-style-type: none"> ①細胞分裂により、全細胞が同じ遺伝情報を持つ。 ②転写翻訳(遺伝子発現)により、さまざまな働きをもつタンパク質が合成される。 ・これを受けて、なぜ、同じ遺伝情報をもつ細胞が分化するのか?どのように遺伝子発現が調節されているのか?という疑問を掘り下げながら、既習事項で説明できる問いには答えを、まだ学習していない疑問には予想を導き出し、今後の学習につなげる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項から、問いが立てられない生徒への支援として、昆虫の変態動画やカエルの発生動画を視聴し、ある細胞が時間とともに次々と分化していくことに疑問が持てるように促す。 ・また、自分たちが立てた問いを掘り下げて具体化するよう声掛けを行う。 ・ロイロノートを用いてペアワークを行い、他の班の考えを順次共有しながら、思考が進まない班に支援を行う。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 生徒が立てた問い、そしてそれに対する自分たちなりの解答や疑問として残っている部分をクラスで共有し、現在の研究段階で判明しているところとそうでないところを紹介し、生徒の興味関心をさらに広げていく。 | | | |

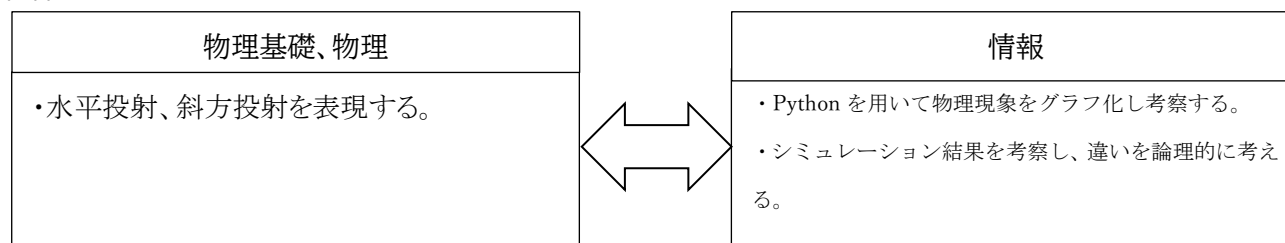
【23H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：英語 | 科目：英コミⅡ | 授業者： | 教室：23H |
| 単元：ELEMENT Lesson 4 The Century of War | | 本時の主題：平和に貢献した人について英語で発表する | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 本文の登場人物であるイレーナ・センドラーのように、平和に貢献した世界の人物に関してグループで調べ、発表する。発表をそれぞれが評価するとともに、平和に向けて人はどうすべきかについて考える。 | | 調べたことをわかりやすく伝えるとともに、聞き手に興味を持たせる発表ができるよう指導したい。 また、平和に貢献した偉大な人物を知り、彼らがしたこととその背景について学べるよう指導したい。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 本文の登場人物についてより深く理解するとともに、平和について考えさせたい。 | | | |

【24H】 教科・科目・領域融合型授業デザインシート

| | | |
|---|------|--------|
| 教科・科目・領域； 物理基礎 | 授業者； | 教室；24H |
| テーマ； Python を用いた力学シミュレーション | | |
| 融合のねらい 力学現象をシミュレーションを用いて視覚化し、論理的に考察する。 | | |
| 本時のねらい 2次元運動を Python を用いて表現する。 | | |

内容



評価規準(○は該当する評価)

| | | |
|------------------------------------|----------|---------------|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 斜方投射のプログラミングを完成させ、結果を論理的に考察できているか。 | | |

【25H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：国語 | 科目：古典探究 | 授業者： | 教室：25H |
| 単元：身の回りにある「すさまじきもの」について、理由も含めて発表しよう。 | | 本時の主題：身の回りにある「すさまじきもの」について、理由も含めて発表しよう。 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 個人で身の回りにある「すさまじきもの」と「すさまじいもの」について理由も含めて考えさせる。 グループで考えた事柄について発表させる。 挙げた例の共通点・相違点をグループで考えさせる。 本時を経て古語から現代語で語義にどのような変化が生じたのかを考えさせたい。 | | なんとなく例を挙げる →「すさまじ」「すさまじい」という言葉の意味を踏まえ、理由も含めて考えるよう、促す。 語義がどのように変化したかについて何を考えてよいか分からない →個人・グループで例に挙げたものをもとにどのような意味の変容が見て取れるかを俯瞰して考えるよう、促す。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 生徒各人がまとめたワークシートを、課題として提出させる。 | | | |

【26H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|----------|
| 教科：保健体育 | 科目：保健 | 授業者： | 教室：26H教室 |
| 単元：8 働くことと健康 | | 本時の主題：働くことの意義と新たな健康問題 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 働くことの意義のついて考えるとともに、働き方が多様化していることを理解する。 働くことによる健康問題について確認するとともに、働く人の健康を守るために定められている法律や制度について確認する。 働き方が多様化する中で、現在の状況を踏まえ、今後予想される新たな健康問題について考える。（個人で考えたのち、グループで説明させる。） | | 労働市場の国際化や AI、ICT の技術の発展といった将来予想される状況なども想定させる。 非正規雇用やフリーランスなどの雇用形態についても確認する。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 自身の考え、グループでの考えをまとめてワークシートを提出させる。 | | | |

【27H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|--------------|
| 教科：国語 | 科目：論理国語 | 授業者： | 教室：27H教室（3階） |
| 単元：主張と論拠を検討、吟味する中で、文章を批判的に検討する力を伸ばそう。 （題材：神里達博『リスク』と『リスク社会』など） | | 本時の主題：主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| (○) | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| ①前時までの学習（活動）内容を確認する。 ②A「筆者の主張（論）」とB「主張を支える根拠」、A'「筆者（本文）の結論」とB'「結論を導く論拠」それぞれに傍線（—）と波線（～）を引く。 ③述べられている主張（論）が、確実な根拠や論拠によって導かれているかどうかを読み取り、適否を判断する。 ★適否判断が、読者の主観になっていないかメタ認知。 | | ①本文や要約、展開図を提示しながら、確認する。 ②すでに生徒のテキストには線等が引かれているため、何も書かれていない本文を再度生徒に与えた上で活動をおこなう。（教科書のコピーを配布する（予定）。） ③クロームブックを活用し、その根拠や論拠についての情報を確認・精査させる。根拠（や論拠）が曖昧なものがあれば、その妥当性や信頼性について吟味させる。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げた箇所について、他のグループと情報を共有する活動をおこなう。 ・（可能であれば、）筆者が提示した根拠や論拠よりも確実なものがないかを検討する。 ・教員が授業で提示する模範解答等についても、本当にそれが妥当であるかどうかを批判的に見る能力も養いたい。 | | | |

【28H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：数学 | 科目：理数数学Ⅱα | 授業者： | 教室：28H |
| 単元：数学B 数列 | | 本時の主題：格子点（連立不等式の整数解の個数） | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 格子点の個数を求める問題において、 $x=k$ 、 $y=k$ （それぞれの座標軸に平行）で考えて個数を求める。 ①境界線がすべて格子点になっている場合 ②境界線に格子点ではない点が含まれている場合 （③境界線が曲線④空間座標）※様子を見て提示 | | <ul style="list-style-type: none"> ・座標軸上の点を正しく数え上げられていない、$k=0$のときのΣ計算の扱いがうまくできない生徒が予想される。 ・$x=k$、$y=k$のどちらが有用性が高いのか、どこで判断し、使い分けるべきか考えるよう声をかける。 ・長方形を利用する解法が生徒から出れば全体で共有する。出なければヒントを与える。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 紹介できなかった図形や数え方を次時で扱い、格子点の数え方の工夫についての理解を深める。 | | | |

【31H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：理科 | 科目：地学 | 授業者： | 教室：31H |
| 単元：気象分野 | | 本時の主題：グラフの読み取り | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>グラフを提示し、グラフが表現する内容の理解に努めさせる。</p> <p>段階的にヒントを与えて理解を促す。</p> <p>適宜、グループワーク、ペアワークを取り入れる。</p> | | <p>感覚的、あるいは経験的にグラフを読み取り、理解しようとする。</p> <p>他者に意見を述べること、他者の意見を聞くことで、自分の考えを整理できるように、助言する。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 他の分野においても同様に図表の読み取りに取り組みせ、多角的に物事をとらえる習慣を育成したい。 | | | |

【32H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|----------|
| 教科：理科 | 科目：生物基礎実践 | 授業者： | 教室：生物実験室 |
| 単元：生物の特徴 | | 本時の主題：酵素のはたらきを調べる | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>酵素反応が起こらないと考えられる酵素を含む物質と基質の組み合わせおよび、酵素を含む物質への処理を考察し、実際に確認実験を行う。</p> | | <p>根拠なくさまざまな組み合わせや操作を実行しようとするのが想定される。なぜその組み合わせが良いと考えたのかのやり取りをしながら、知識の確認も併せて行う。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 実験結果を整理・共有し、酵素の特徴とはたらきについてまとめる。 | | | |

【33・37・38H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|----------|
| 教科：保健体育 | 科目：体育 | 授業者： | 教室：第2体育館 |
| 単元：バドミントン | | 本時の主題：空いたスペースを作り出す。 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦手としている基礎的なフライトの練習を行う。 ・ シングルスゲームでどのようなフライトを打てば相手が動くか考える。 ・ シングルスゲーム | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 前後・左右の打ち分を考えて練習するよう指導する。 ・ 他の生徒の試合を見て、良かったところなど発言をさせる。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームの中で状況を判断したプレーをできるようにする。 | | | |

【34・35H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|----------|
| 教科：数学 | 科目：数学実践γ | 授業者： | 教室：進路学習室 |
| 単元：場合の数 | | 本時の主題：出題者の意図を読み取る | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>前時までに解き終わった入試問題について、入試問題についての出題の意図をグループで読み取る。</p> <p>その後、各グループで意図をもって数学の問題を作り、相互に問題を解き、その意図を読み取る。</p> | | <p>問題をうまく作れないことが予想される。</p> <p>参考書や問題集の数字を変えて作ってもよいとし、大切なのはどんな意図をもって出題するのか、解答者がどこでつまづき、間違えやすいかのポイントをつかむことである。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| <p>演習問題について出題者の意図は何だったのか、その問題を解くうえで重要となるポイントや解く、解けないがどとで出てくるのかを今後の授業で随時生徒に聞いていく。必要に応じてレポートを課す。</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：数学 | 科目：数学実践理 γ | 授業者： | 教室：34H |
| 単元：場合の数・確率 | | 本時の主題：確率漸化式 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>「正三角形の頂点を移動する点」の確率を考えさせる。 ペアワークで考え方を確認させる。</p> <p>その後、「正四面体」や「立方体」の頂点ではどう考えられるかをグループで考えさせ、どのような場合においては簡単で、どのような場合には考え方が難しくなるかなどを考えさせる。</p> | | <p>正三角形の時点ですでに難しく感じる生徒が多ければ、早めにペアワークに移行させ、2人で考えさせる。</p> <p>問題を解くことよりも、図形のどのような性質に注目するかを重要視する。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| <p>方針を立てられるようになったことを確認し、実際に問題を解いてみる。</p> <p>自分で図形、数値を設定し、確率漸化式の問題を作る。</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|--------|
| 教科：数学 | 科目：数学実践理 γ | 授業者： | 教室：35H |
| 単元：場合の数・確率 | | 本時の主題：条件付き確率 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>条件付き確率に意味を確認し、実際に問題を解いてみる。</p> <p>「男女比が8：7である高校で、メガネをかけた女子生徒の割合が2割であるとき、女子生徒の1人を選び出したとき、メガネをかけている確率」を求める。</p> <p>まず個人で考え、次にペアで考えさせる。</p> | | <p>数学が苦手な生徒が多いので、条件付き確率の意味や公式をしっかりと理解したうえで考えるよう指導する。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| <p>方針を立てられるようになったことを確認し、実際に問題を解いてみる。</p> <p>最終的には、原因の確率が求められるようにする。</p> | | | |

【36H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|----------|
| 教科：国語 | 科目：古典探究 | 授業者： | 教室：36H教室 |
| 単元：様々な詩にふれることを通し、自分のものの見方や考え方を深めよう。(読むこと・キ) | | 本時の主題：陶淵明「飲酒」を読む | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>【教師からの問い】「飲酒」の詩の中に「菊を採る」という表現が見られるが、菊を摘むのは何のためか。中国で伝統的に菊の花がどのような用途で用いられていたか調査しよう。</p> <p>上記の問いに関連した問いを生徒に立てさせる。 「日本では?」「西洋では?」「他の花は?」など。</p> | | <p>インターネットで「中国」と「菊」について調査し、中国における菊のイメージについて生徒は知ることになる。そこから自分なりの問いを立てさせることで、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いたい。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 「飲酒」の詩の中の言葉から関連する詩（文学作品も可とする）をさがし、いくつかの作品を比較することで、「飲酒」の価値づけを行う。 | | | |

【3限】【11H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|--------|
| 教科：理科 | 科目：化学基礎 | 授業者： | 教室：11H |
| 単元：粒子の結合 | | 本時の主題：共有結合の結晶の特徴 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>金属結晶、イオン結晶や分子結晶の特徴は、それぞれの結合に起因していたことを確認する。</p> <p>共有結合の結晶である、ダイヤモンド・黒鉛・ケイ素・二酸化ケイ素の結晶の特徴を見比べて、同じ共有結合の結晶であるにもかかわらず、電気伝導性や硬さが異なることを見出す。</p> <p>個人で考えた後、班で分子模型を用いてその理由を考察する。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤモンドと黒鉛で電気伝導性が異なるのはなぜか?（生徒の反応） ・ダイヤモンドが固いのに、黒鉛が柔らかいのはなぜか?（生徒の反応） ・電気伝導性については金属結晶を、硬さについては分子結晶やイオン結晶と比較させることで理由を考察させる。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 金属結晶、イオン結晶、共有結合の結晶、分子結晶の特徴を整理し、それぞれの特徴と結合の関係をまとめる。 | | | |

【12H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|----------|
| 教科：英語 | 科目：論理表現 I | 授業者： | 教室：12H教室 |
| 単元：接続詞1 | | 本時の主題：and or の用法の違い、使い分け | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・and と or が使われるシーンの復習をする。 ・英語では「not A and B で A も B もない。」という訳にはならないことを伝える。 ・Chrome book など調べさせ、4人グループ内で話し合い。早く終わった様子であれば、グループの代表者にまとめを発表させる。 ・他にもなぜこのような違いが生まれたのかなどの疑問をあげさせ、ワークシートに記述させる。 | | <p>インターネットを使用しての情報収集の時間が長くなることが想定される。探究活動で説得できる発表をするためには、信頼性の高い論文を見つけることを学習しているため、その応用ができるように声掛けをする。</p> <p>由来を調べて解決することが目的ではなく、さらに由来という視点でほかの間を立てることをねらいとする。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 授業後、個人が立てた問いに関してその由来を調べてまとめるレポート課題を課す。 | | | |

【13H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|--------|
| 教科：家庭科 | 科目：家庭基礎 | 授業者： | 教室：被服室 |
| 単元：住生活をつくる | | 本時の主題：生涯を見通した住まいの提案 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <ul style="list-style-type: none"> (1) ペアで4つの選択肢からテーマを設定する。 (2) テーマのライフステージ・ライフスタイルにおける課題を探る。 (3) 課題を改善・解決するための仮説を立てる。 (4) 住宅会社HPから、(3)を満たす間取りを探す。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児」「高齢者」等の定義についての質問が予想される。 ・設定のライフステージのみに着目するか、先のことを見通して課題を探るかで学習の深さは変わってくるが、始めは生徒間のディスカッションに委ねる。一定の思考時間を与えた後に、教師がペア毎に声かけし、生徒が課題や仮説の問い直しを行う場面を設定する。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 選んだ間取りの住宅で、テーマの家族が実際に生活することをイメージし、さらなる課題を探る。 (2) 一連の学習の成果をプレゼンし、クラスメイトの評価をもらう。 | | | |

【14H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：地歴公民 | 科目：歴史総合 | 授業者： | 教室：14H |
| 単元：国民国家と明治維新 | | 本時の主題：帝国主義と日本 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 前時の復習 日露戦争の動向を知る 日露戦争が周辺のアジア諸地域に与えた影響 日露戦争後の国際関係 日露戦争後の中国の状況 | | 日露戦争は、アジア諸地域にどのような影響を与えたのだろうか？ ・ロシア …ロシア革命が進行した ・オスマン帝国 …ロシアを排除し国内を改革する ・インド …イギリスに対する反発を強める ・朝鮮半島 …日本の植民地となる | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 帝国主義が拡大を見せる中、列強による世界分割競争が激化し、第1次世界大戦へとつながっていくことを知る。 | | | |

【15H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：地理歴史・公民 | 科目：歴史総合 | 授業者： | 教室：15H |
| 単元：近代化と現代的な諸課題 | | 本時の主題：近代化と現代の諸課題とのつながり | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| ・ここまでの学習内容を振り返る ・教科書で提示されたテーマについて、各自で選び、ここまでの学習を活用して自分の考えをまとめる。 ・近くの生徒同士で発表・共有を行う。 | | ・歴史認識に誤解がある場合は、机間巡視等で助言を行う。 ・現代とのつながりに留意するよう伝える。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| ・本時は歴史総合の大テーマの一つ「近代化」のまとめである。 ・次のテーマ「大衆化」について、本時の内容も踏まえ、学習を進めていく。 | | | |

【16H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|----------|
| 教科：国語 | 科目：言語文化 | 授業者： | 教室：16H教室 |
| 単元：訓読のきまりを理解し、文章の内容や構成、展開などを的確に読み取ろう。(読むことA) | | 本時の主題：「借虎威」に込められた意図について考察する。 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| <input type="radio"/> | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| <input type="radio"/> | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>「借虎威」の内容を確認する。</p> <p>寓話の背景として何を喩えた話なのかを考えさせる。</p> <p>教科書本文の前後の漢文を提示し、グループで読み下し、誰のどのようなねらいによるたとえ話なのかを考察する。さらに、春秋・戦国時代や遊説家という時代背景に視点を広げていきたい。</p> | | <p>一般的な故事成句としての「借虎威」の意味にとどまらないよう、『戦国策』の本文や当時の地図を示すなど、生徒がさまざまな視点で思考できるよう指導する。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| ・各グループの発表も参考に、各人がまとめたワークシートを提出させる。 | | | |

【17H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：英語 | 科目：論理表現 I | 授業者： | 教室：17H |
| 単元：不定詞① | | 本時の主題： | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| <input type="radio"/> | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| <input type="radio"/> | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>to-不定詞の用法について復習する。</p> <p>「なぜ to-不定詞を使うようになったのだろうか？」生徒に問う。(to-不定詞の使用について“由来”という側面で注目する。)</p> <p>Chromebook 等で調べ、グループで話し合わせる。</p> <p>他にもなぜこのような由来になるかの疑問をあげさせ、ワークシートに記述させる。</p> | | <p>インターネット検索で情報収集が長くなることが考えられる。</p> <p>to-不定詞の使用の由来という疑問を解決する授業ではなく、文法上の決まりの由来という視点でそのほかの問いを立てることをねらいとする。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 個々人が立てた問いについて、その由来を調べてまとめるレポート課題を課す。 | | | |

【18H】教科・科目・領域融合型授業デザインシート

| | | |
|---|------|--------|
| 教科・科目・領域; 数学・理数数学 I | 授業者; | 教室;18H |
| テーマ; 平面充填・・・平面内を有限種類の図形で隙間なく敷きつめること | | |
| 融合のねらい 数学における幾何学模様が芸術や工学など身近なところで活用されていることを学ぶ | | |
| 本時のねらい 平面充填について考え、正多角形の性質について学び、実際に平面充填を作成、提案する | | |

内容

| | |
|--|---|
| 数学 | 美術 |
| 正多角形の性質を用いて、平面充填が成り立つ条件を学び、平面充填について考察する。 | 直線が織りなす形状が、規則的かつ幾何学的な図形を描くことを学び、平面充填を作成、提案しようとする。 |

評価規準(○は該当する評価)

| | | |
|----------------------------------|----------|---------------|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 平面充填について学び、その性質を用いて自ら作成、提案しようとする | | |

【22・24・25H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|----------|
| 教科:保健体育 | 科目:体育 | 授業者: | 教室:第2体育館 |
| 単元:ネット型 バレーボール | | 本時の主題:対戦相手の特徴に応じた作戦を立てて、攻防する。 | |
| ねらいとする課題発見力(左の欄に○をつける) | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・チーム練習 ・試合(試合前に、対戦相手を見てどのような作戦で試合を進めるのかを決める。) | | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが課題としていることを明確にしてから練習に入るように指導する。 ・試合前に、作戦タイムを設けてどのように試合を進めるかを決めさせる。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・試合の進行、審判などを自分たちで行えるようにする。 | | | |

【23H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|--------|
| 教科：地歴公民 | 科目：地理探究 | 授業者： | 教室：23H |
| 単元：エネルギー資源・鉱産資源 | | 本時の主題：日本の資源消費 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 日本の資源の輸入依存度・輸入先の資料を見て問題点の 見つけ出し、その対策について考える。 環境問題を考慮しながら貸先を考える | | 資源の自給率が低い。輸入先も限定されている。 輸入右寄りも政情不安定な国紛争地域である事。 エネルギー資源を化石燃料の依存するのではなく 代替エネルギーや省エネルギー開発が重要 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 日本のエネルギー資源、鉱産資源の課題を考慮し、「工業」でどのような技術開発で問題解決が図られるかを考える | | | |

【26H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--|-----------|
| 教科：情報 | 科目：情報 I | 授業者： | 教室：26H 教室 |
| 単元：コンピュータとプログラミング | | 本時の主題：ハードウェアとソフトウェアの構成 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 新しい単元、コンピュータのしくみについての1時間である。 「ハードウェアとソフトウェア」について既習であることを確認し、例示を問う。 中でもハードウェアの構成について動画をみて、視覚的に学習する。動画の内容を踏まえて、ハードウェアの構成を確認し、プリントに記入する。 | | 中学での学習を覚えておらず、手が止まる生徒がいると考えられる。 事前に隣とペアにさせ、相談しながら例示を出すよう指示を出す。 動画を見ているときも、ただ見るのではなく部品に注目して見るよう指示を出す。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| ハードウェアの構成の後、ソフトウェアの構成をも詳しく説明していく。 そして、コンピュータでの内部表現を2進数等と関連して説明していく。 | | | |

【27H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|--|------------|
| 教科： 外国語（英語） | 科目：論理表現Ⅱ | 授業者： | 教室： 27H 教室 |
| 単元：What school events do you have? | | 本時の主題：学校行事の改善点を考える | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>① 前時の授業で選んだ3つの学校行事の中から少なくとも1つについて個々の生徒に現状の問題点を考えさせ、改善案を出させる。</p> <p>② 生徒はグループで①を共有した後、それぞれの案を実施する際の問題点を指摘しあう。</p> <p>③ ②の指摘を踏まえて案を改善し、グループで再共有する。</p> | | <p>基本的に批判的思考には慣れていない生徒が多いため、生徒が①②の活動で問題点を必ず考えるように授業を展開する。それぞれの活動において苦戦している生徒やグループが存在することが予想されるので、観察しながら必要に応じて個々に助言を行う。</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| グループ内で最も良い案を決定した後、代表者が発表し、クラス全体で共有する。発表する際は、その案が最も良い案である理由も説明する。 | | | |

【28H】

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|-----------|
| 教科：理科 | 科目：理数物理 | 授業者： | 教室：28H 教室 |
| 単元：波の性質 | | 本時の主題：波の重ね合わせの原理 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| <p>物体（粒子）と波動の違い</p> <p>「物体（粒子）同士をぶつけるとどのようなようになる？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起こりうるシナリオを理由も併せて考える <p>「波（波動）同士をぶつけるとどのようなようになる？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起こりうるシナリオを理由も併せて考える <p>「波の独立性」と「重ね合わせの原理」について学ぶ</p> | | <p>●説明に具体性がかけており、単語のみもしくは抽象的な表現しかできない</p> <p>◎他者に状況が伝わるように、できるだけ具体的な例示や説明をするように促す</p> | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 「波の独立性」と「重ね合わせの原理」により、波の伝搬をコンピュータ上で簡単に再現できる。Pythonを用いて波の伝搬のプログラムを作成し、各自が探究活動を行いながら、波の性質の深い学びへと導く。 | | | |

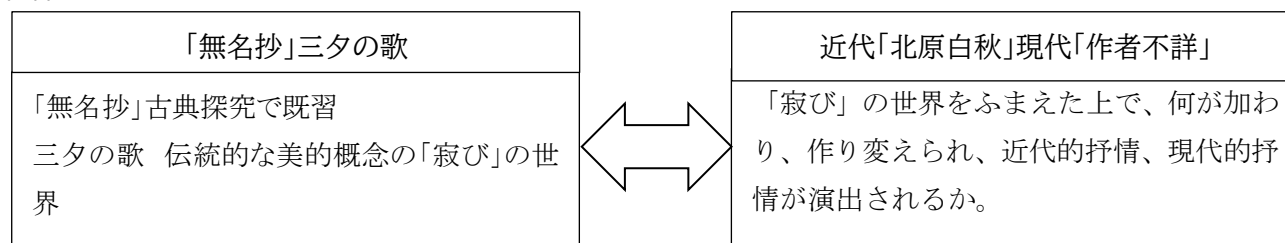
【31H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--------------------------------------|------------|
| 教科：英語 | 科目：英語コミュニケーションⅢ | 授業者： | 教室：31 H 教室 |
| 単元：ELEMENT Lesson6 A Class from Stanford University | | 本時の主題：意見をまとめ、英語で発表する | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 単元の導入 本文にある問い(What would you do to earn money if all you had was five dollars and two hours?) に対する考えをグループでまとめ、発表する。発表を聞いた後は、どの方法が良いと思ったかを話し合う。 | | 様々なアイディアに対して、それぞれのメリットデメリットを考えるよう促す。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 問題を解決するにはどのような視点をもつことが重要かを考えさせたい。 | | | |

【32H】 教科・科目・領域融合型授業デザインシート

| | | |
|--|------|--------|
| 教科・科目・領域； 文学国語 | 授業者； | 教室；32H |
| テーマ； 現代短歌の本歌取り | | |
| 融合のねらい 近現代の短歌は古典作品の世界を受け継いで作られているものもある。近現代の短歌を解釈するうえで、本歌取りという技法から、古典作品をふまえた重層的な解釈を試みる。 | | |
| 本時のねらい 中世に起こった「寂び」の美的概念を背景にしなが、近現代的抒情を演出していることを読み取り、解釈する。 | | |

内容



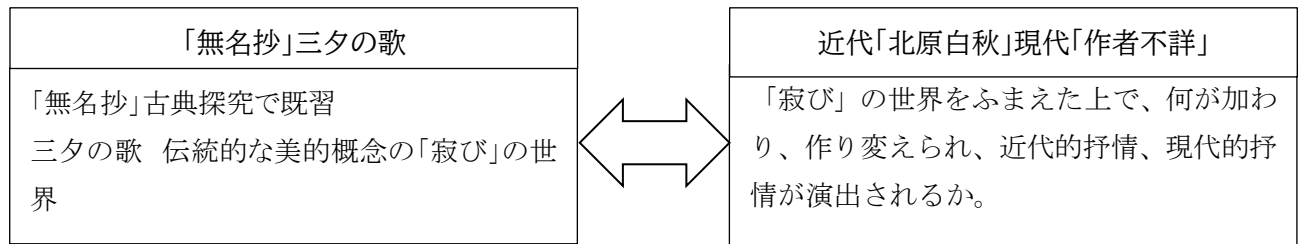
評価規準(○は該当する評価)

| | | |
|-----------------------------------|----------|----------------|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | ○主体的に学習に取り組む態度 |
| 「寂び」をふまえた上で、北原白秋と詠み人知らずの歌を解釈できるか。 | | |

【33H】教科・科目・領域融合型授業デザインシート

| | | |
|--|------|--------|
| 教科・科目・領域； 文学国語 | 授業者； | 教室；33H |
| テーマ； 現代短歌の本歌取り | | |
| 融合のねらい 近現代の短歌は古典作品の世界を受け継いで作られているものもある。近現代の短歌を解釈するうえで、本歌取りという技法から、古典作品をふまえた重層的に解釈を試みる。 | | |
| 本時のねらい 中世に起こった「寂び」の美的概念を背景にしながら、近現代的抒情を演出していることを読み取り、解釈する。 | | |

内容



評価規準(○は該当する評価)

| | | |
|-----------------------------------|----------|---------------|
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 「寂び」をふまえた上で、北原白秋と詠み人知らずの歌を解釈できるか。 | | |

【34H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|-----------|
| 教科：公民 | 科目：政治・経済 | 授業者： | 教室：34H 教室 |
| 単元：現代経済のしくみ | | 本時の主題：生産のしくみと企業 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| (1) 企業活動や株式会社のしくみ、現代企業の特徴について理解する。 (2) CSR 企業ランキングをもとに、企業の実践事例を収集する。 (3) グループで実践事例を共有し、「これからの企業に必要な視点とは？」という問いに対して考察する。 | | ・情報収集する際のポイントについて確認する。 ・Jamboardなどを活用して情報を共有したうえで、「環境」「社会」「ガバナンス」の面に注目させていく。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 本時は、企業活動についてまとめに当たる。今回の内容が、日本経済の変遷・動向と結びついていくようにする。 | | | |

【35H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------|
| 教科：英語 | 科目：英語コミュニケーションⅢ | 授業者： | 教室：35H 教室 |
| 単元：ELEMENT Lesson6 A Class from Stanford University | | 本時の主題：意見をまとめ、英語で発表する | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 単元の導入 本文にある問い(What would you do to earn money if all you had was five dollars and two hours?) に対する考えをグループでまとめ、発表する。発表を聞いた後は、どの方法が良いと思ったかを話し合う。 | | 様々なアイデアに対して、それぞれのメリットデメリットを考えるよう促す。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 問題を解決するにはどのような視点をもつことが重要かを考えさせたい。 | | | |

【36H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------|
| 教科：英語 | 科目：英語コミュニケーションⅢ | 授業者： | 教室：36H 教室 |
| 単元：ELEMENT Lesson6 A Class from Stanford University | | 本時の主題：意見をまとめ、英語で発表する | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 単元の導入 本文にある問い(What would you do to earn money if all you had was five dollars and two hours?) に対する考えをグループでまとめ、発表する。発表を聞いた後は、どの方法が良いと思ったかを話し合う。 | | 様々なアイデアに対して、それぞれのメリットデメリットを考えるよう促す。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 問題を解決するにはどのような視点をもつことが重要かを考えさせたい。 | | | |

【37H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|--------------------------------------|-----------|
| 教科：英語 | 科目：英語コミュニケーションⅢ | 授業者： | 教室：37H 教室 |
| 単元：ELEMENT Lesson6 A Class from Stanford University | | 本時の主題：意見をまとめ、英語で発表する | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| ○ | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 単元の導入 本文にある問い(What would you do to earn money if all you had was five dollars and two hours?) に対する考えをグループでまとめ、発表する。発表を聞いた後は、どの方法が良いと思ったかを話し合う。 | | 様々なアイディアに対して、それぞれのメリットデメリットを考えるよう促す。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 問題を解決するにはどのような視点をもつことが重要かを考えさせたい。 | | | |

【38H】

| | | | |
|---|-----------------------------------|---|----------|
| 教科：理科 | 科目：理数化学 | 授業者： | 教室：化学実験室 |
| 単元：物質量 | | 本時の主題：気体の分子量測定 | |
| ねらいとする課題発見力（左の欄に○をつける） | | | |
| | ① 情報に対して、自分なりの視点で注目することができるようになる | | |
| ○ | ② 注目した側面について、疑問・問いを立てることができるようになる | | |
| 本時における、おおまかな授業展開 | | 想定される生徒の反応と、教師の声かけ | |
| 前回の授業で、与えられた器具を用いて、気体の分子量を測定する方法を考えさせてある。 今回は水上置換法で分子量を測定する。 | | 今回の実験では、実際に水上置換法を用いて気体の分子量を測定してもらう。正確性を上げるためには液面を水面の高さと合わせることや、計算のときに水の蒸気圧等を考慮すべきであるが、それについてヒントは出さない。 | |
| 今後の授業展開・計画 | | | |
| 計算が合わなかった生徒（グループ）にはヒントを出して理解を促す。 | | | |